

キイチゴ「ベビーハンズ」の整枝方法

～樹勢維持のための整枝方法は1㎡あたり春に立った草勢の強い3～5本が適する～

背景・目的

- 宮崎県において、2013年度よりキイチゴ「ベビーハンズ」の栽培が始まりました。
- 北海道で見つかった品種であり、宮崎県の気候条件下での適切な栽培管理方法が把握できていません。
- 現地では、地上部を全て収穫すると樹勢が低下したり、枯死する事例がみられています。

成果の内容

- 草勢の強い枝を残さない場合、整枝設定開始2年目に収穫本数が前年より大幅に減少し(表1)、かつ枯死してしまう株も出ます。
- 春に立った草勢の強い枝を1㎡あたり3～5本残すと、整枝設定開始1年目及び翌年も50本以上収穫できます(表1)。

表1:キイチゴ「ベビーハンズ」の各整枝本数の1㎡あたりの年間収穫本数

年	区	規格						合計
		40cm	50cm	60cm	70cm	80cm	90cm	
2016年	0本	2.0	14.6	28.6	8.8	3.4	1.2	58.6
	3本 (標準)	4.2	25.6	29.2	6.2	0.6	0.0	65.8
	5本	0.6	13.8	27.4	8.0	1.8	0.2	51.8
2017年	0本	18.5	12.3	4.5	0.8	0.0	0.0	36.0
	3本 (標準)	28.5	17.8	6.3	1.3	0.5	0.2	54.7
	5本	29.6	22.0	11.4	3.8	1.6	1.2	69.6



写真1: 2017年秋の0本区の状態

成果の活用方法(又は期待される効果)

- 翌年も樹勢が維持されるため、安定的に収穫することが可能となるため、10aあたり年間約5万本以上の収量が期待できます。また、株が弱ることによる生育不良及び株の枯死の軽減につながります。



写真3: キイチゴ「ベビーハンズ」の樹勢維持で残す枝を決めた春の各整枝株状況(2017年4月)
(左: 0本区、中央: 3本区、右: 5本区)

※矢印の枝が樹勢維持のために1年間残す枝です

- 普及対象地域・面積 県内のベビーハンズ生産地域

留意点

- 亜熱帯作物支場(日南市)での試験結果です。
- 2013年10月に株間1m×条間1.5mで定植し、無施肥で管理した株の定植3～4年目の調査結果です。
- 樹勢維持のために残す枝は、樹高が高くなり、側枝が発生するので、切り込み過ぎないように側枝の剪定を行い、風通しをよくし、下から萌芽する新芽の蒸し込みや病害虫を防ぐように管理します。
- 夏季に整枝や多収穫すると、その後の収量が減るので注意します。
- 定期的に収穫することが大切で、月2回程収穫し、収穫場所をずらしながら一度に収穫することを避けます。